

総合実習 (グループで行う問題解決)

情報の科学 第41回授業

09総合実習

対応ファイル: 16exp41.xls

総合実習とは（教科書 P.144～）

• プロジェクト型学習

- テーマ決め、計画、学習、成果の発表など、すべて自分たち自身で考え、判断し、作業を進める形式
- グループで作業を進め、先生の関わりは必要最小限

• 問題解決型学習

- 単に「調べただけ」ではなく、自分たちで「問題」を発見し、その「解決提案」を行う
- 論理的で説得力のある具体的な解決提案を

• 探究型学習

- キーワードは「広がり」「深まり」「オリジナリティ」
- 積極的に、アンケート、インタビュー、実験など、自分たちしか知らない情報を活用

実習の流れ

3～4時間目：計画書の提出

- ・変更も構わないが、変更するなら早い方が良い
- ・大きな変更がある場合は、再提出を

5～7時間目：調査、発表資料作成

- ・校外で調査する予定のある班は、必ず事前に相談を

8～10時間目：プレ発表（5分）

- ・発表順に準備室でリハーサル（スライド完成のこと）
- ・次に発表するチームが観客となり、質問や意見
- ・直接関係ないグループは引き続き作業可

11～12時間目：発表（7分）

- ・1グループ質問込みで7分間、相互評価も行う

13時間目：まとめ

実習の進め方

- 毎時間、作業報告(プロセスシート)を記入する
- リーダーを中心に、積極的にディスカッションや相談、助け合いを
- 時間内に、他のグループに対して、話しかけたり相談したり調査を行ったりすることは禁止
- グループで解決できない内容は、先生に相談
- 必要な情報やヒントは「提示」にあるので参考に

問題の発見とテーマ決め

- メインテーマ
「情報科学や情報技術を社会に役立てる」
- 問題を発見（理想と現実とのギャップを明らかに）し、それを解決する（埋める）ことが「目的」
- 理想を具体化した時、それに関連する内容が「テーマ」

問題の発見と明確化(現実→理想)

理想
④ 持ち運びを楽に！

⑧ 具体的な理想
会員カードをなくす

⑤ 具体的な現実

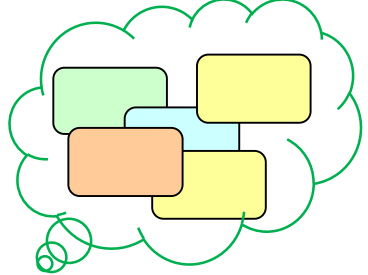
会員カードが
10枚もある！

⑥ なぜ？
店ごとに違うカード
ポイントを貯めたい

⑦ おサイフケータイが使えない
系列会社でない

現実
③ 会員カードがたくさんあって邪魔

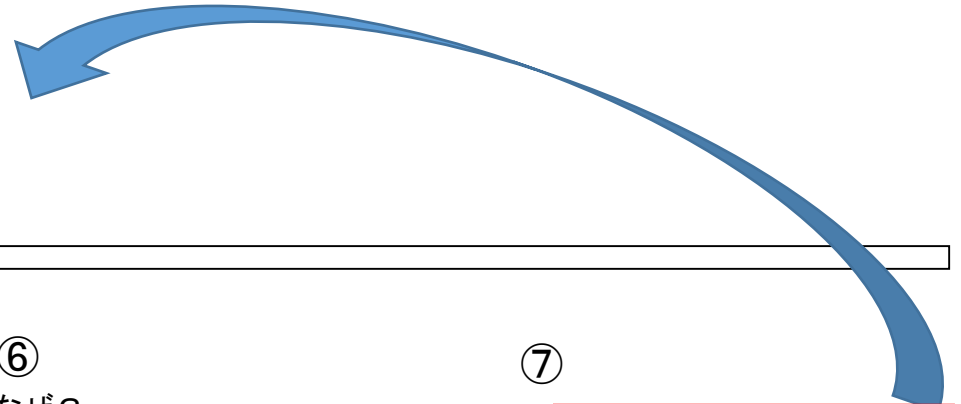
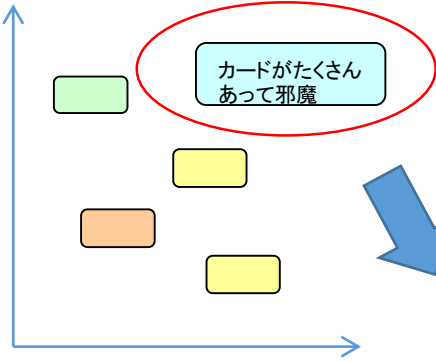
① ブレインストーミング



② 評価

採用！

カードがたくさん
あって邪魔

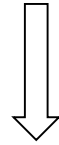


問題の発見と明確化(理想→現実)

理想 ①あるべき姿を考える
高齢化を克服する

②具体的な姿をブレインストーミング

③評価



④具体的な理想

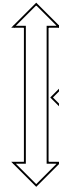
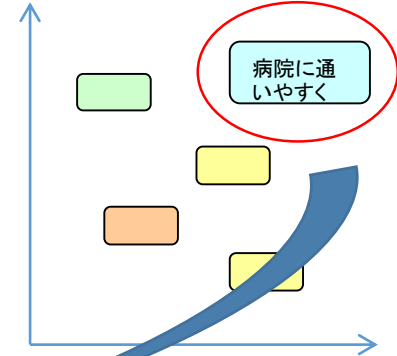
病院に通いやすく

⑦どうすれば?

付き添いのシステムをつくる

ボランティアのしくみ

保険の活用



⑤現実はその逆
具体的な現実

病院に通いにくい

⑥なぜ?(予備調査)

交通機関がバリアフリーでない

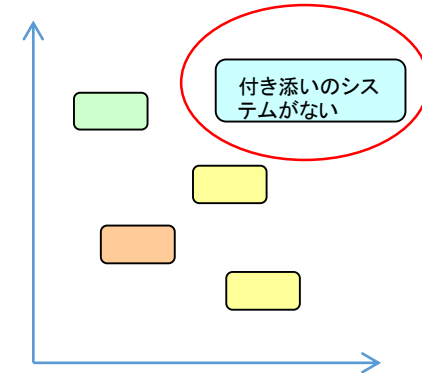
介護する人がいない

体力が落ちている

採用!

付き添いのシステムがない

家族が遠くに住んでるから



現実

少子高齢化が顕著